

社協ものうだより

第1号

2023.07.26

桃生町寺崎地区
若山崇さん
トラヴィス君

「盲導犬トラヴィスと共に歩む」

桃生地区にお住いで市内唯一の盲導犬ユーザーとして、社協の福祉学習にご協力いただいている若山崇さん(一歩を樂しむ石巻代表)にインタビューさせていただきました。

社協だよりのページに載せきれなかった内容をこちらにまとめましたのでぜひ一読ください。

盲導犬トラヴィス

との出会い

私は東日本大震災の翌年からだんだんと目が見えなくなっていきました。そのうち車も運転できなくなって、仕事も辞めざるを得なくなり、この世の終わりのように引きこもりの生活になっていきました。そんな生活を過ごす中で、外に出掛けたという衝動が出現してきましたが、当時の状態では玄関から一步外に出るのは恐怖でしかなかった。家族がサポートしてくれて出掛けることもありましたが、家族の大切な時間を自分のために割いてもらうことに気が引けて、頼みづらくなり徐

々に自分の足で出かけたと思うようになりました。

自分の足で歩くために、まずどこに相談したらいいか分からず、いろいろな機関に電話をしてようやく「白杖」というものにとどり着きます。白杖は自分の体に合わせて作るということ、日本盲導犬協会の方が代理で説明に来てくれました。そこで初めて盲導犬のことを知りました。

実際に白杖を持ったからといって、すぐに外を歩けるわけではなく、日常生活の訓練が必要です。でも人に見られたくないという気持ちがあり、住んでいる地域は歩きたくなかった。仙台の街中で白杖の訓練をして、石巻から仙台まで、白杖を使って一人で行けるようになったことで自信がつかってきました。ただ、白杖は周囲の物に当てながら探りながら歩くため、以前の自分が歩いていたスピード感ではなく、見えていた時の歩き方をしたいと思い始めます。

そうして盲導犬協会へ連絡し、盲

導犬と過ごすための一日宿泊体験会に参加しました。

参加するまで、盲導犬がどんな働きをするのかも全く分からず、「桃生の社協に連れて行って」と言ったら盲導犬が連れて行ってくれるものだと思い、信じていました。信号が変わったら教えてくれるんだらうなど。不安もありましたが、実際に歩いてみたら「これだ!」と思い、こういう歩きたい、盲導犬と歩きたいという想いになりました。家族会議をして、盲導犬の申請をして、一年ほど待つようやくトラヴィスがパートナーとなりました。これがトラヴィスとの出会いのきっかけです。



トラヴィスとの生活で

印象に残っていること

印象に残っているのはとにかく毎日

す。歩いていなくても、家にいるだけで楽しい。

日常生活としては、盲導犬が珍しいので初めはご近所さんが遠巻きに見ていたそうですが、毎日地域を歩いていたらだんだんと挨拶を交わすようになりました。「盲導犬ですごいね」と興味を持ってくれて、最近はお手玉袋、ビーズ小物、ポプリなどをしたものを第一土曜日に集まってラッピングをしています。見える方と見えない方が一緒に制作することもあります。

また、視覚障害者用にiPhoneやPCの無料貸出も行っています。視覚障害者の弱点は得られる情報が限られていること。情報弱者をなくすために端末の貸出を行っています。全く会ったことのないボランティアさんと繋がれるアプリがあったり、カメラで撮影すると読み上げてくれたり、時刻も教えてくれる。災害など有事の際に、避難行動や生活に役立つツールとして推奨しています。デジタルアドバイザーという方が遠隔で教えてくれるので、自分には使えないだろうという人もぜひ使ってみてほしいです。

※以下、「一歩を楽しむ石巻」

目が見えなくてもできることはたくさんあります。こんなことをしたい、やりたいという気持ち復活させるのが最初の目的でした。その人その人それぞれに合わせたサポートの仕方があります。いろいろなところに出掛けてさまざまなことを体験したり、楽しい事ばかりではなく、時には車に轢かれそうになったりと危険なこともあります。常に気づきと発見です。

実は東京オリンピック2020で聖火ランナーとしてトラヴィスと一緒に走り、開会式にも少し出たりと、世界のトラヴィスになりましたね。

「一歩を楽しむ石巻」は視覚障害者団体なので、一人でも多く盲導犬の良さを伝えていきたいです。ただ、盲導犬が絶対いいよということではなく、その人に合わせたもので生活を取り戻してもらえたらと思います。

活動への想い

活動としては、それぞれが製品作り(アクリルたわし、お手玉袋、ビーズ小物、ポプリなど)をしたものを第一土曜日に集まってラッピングをしています。見える方と見えない方が一緒に制作することもあります。

第二土曜日はリモート茶話サロンを開催しています。コロナも5類になったので、そろそろ対面とリモートのハイブリット形式に変えたいなと思っています。茶話サロンでは毎月話すテーマを設け、視覚障害者の病気はあるか、日常生活の困りごと、悩みごとなどを話し、雑談の中で本音を言い合える関係になっています。

第三日曜日午前10時から12時の2時間は、あけぼののヨーカドーさんで製品の販売をしています。トラヴィスも一緒にいるので、盲導犬の啓発活動も兼ねています。販売を始めて2、3年になります。活動の主旨を理解していただき、定期的に販売させていただいています。お互いが自然と寄り添える環境づくりを目指しています。

第四土曜日は何かやりたいことがあれば、スポーツなど大きなイベント行事をやっています。去年はタンDEM自転車(全国)の視覚障害者の中でブームになっています)で、一般公道も走れる自転車を体験しました。

今年の11月から12月にかけて視覚障害

者のスポーツフェスを企画中です。シッティングバレーを始め、サウンドテーパーテニス、ポッチャ、タンDEM自転車など4つか5つの種目を考えて環境づくりを目指しています。

また、視覚障害者用にiPhoneやPCの無料貸出も行っています。視覚障害者の弱点は得られる情報が限られていること。情報弱者をなくすために端末の貸出を行っています。全く会ったことのないボランティアさんと繋がれるアプリがあったり、カメラで撮影すると読み上げてくれたり、時刻も教えてくれる。災害など有事の際に、避難行動や生活に役立つツールとして推奨しています。デジタルアドバイザーという方が遠隔で教えてくれるので、自分には使えないだろうという人もぜひ使ってみてほしいです。

団体にはライングループがあり、情報発信、情報交換をしたりつぶやきの場になっています。誹謗中傷さえつぶやかなければ当事者も健常者も分け隔てなく、何をつぶやいてもOKにしています。

福祉学習で印象に残っていること

子どもたちの雰囲気は全部違う

ので全部印象に残っています。みんな興味や疑問を持って最後まで話を聞いてくれるので感動しています。目の見えない人にとっては声のリアクションが大切になるんですが、最初は恥ずかしがりながらも、だんだんと素直で自然な声を届けてくれるのが嬉しいです。

子どもたちに伝えたい

今は福祉学習を通して、困っている人のサポートの仕方や障害について知ってもらおうだけではないと思っています。ずっと覚えておいてねということではなく、数年後数十年後、例えば盲導犬や白杖を使っている人を見かけたときに、授業を思い出して、声かけやサポートに繋がっていきけるように、少しでも記憶に止められるようにと心がけています。

そして、子どもたちにはこれからのコミュニティの中で、目の不自由な人への心あるサポートの仕方を期待しています。

若山さん、たくさんさんの質問に答えていただきありがとうございます！社協としても、福祉学習を通して子どもたちに気づきや思いやりの気持ちを持ってもらえるようこれからも取り組んでいきたいと思っています。

そして今年の秋に盲導犬を引退するトラヴィス君、子どもたちにたくさんさんのことを教えてくれてありがとうございます。引退するその日まで、元気に活躍されることと思います。最後までお読みいただき、ありがとうございました。



令和5年2月2日(木) 桃生小学校 福祉学習の様子